



さざんか



10・25 安倉フェスタ

内容

- 理事長より
- 就任挨拶 (今西常務理事)
- 事業所探訪 (宝塚めふプラザ)
- 突撃! 隣のグループホーム (ひまわりホーム)
- 事業所だより
- 定期総会・宝塚サマーフェスタ
- 先進地バス見学会
- 後援会会長より
- 人事・日誌
- 新商品紹介
- 編集後記

発行 社会福祉法人 宝塚さざんか福祉会/宝塚さざんか福祉会後援会
運営事業所 宝塚さざんかの家 宝塚あしたば園 宝塚めふプラザ 宝塚けやきの里 ワークプラザ宝塚
かしの木工房 こはま 宝塚くるみの里 いきいき宝夢
宝塚市障害者就業・生活支援センター 相談支援センター さざんかグループホーム
さざんかヘルパーステーション 地域生活支援センター (楽樹)
法人事務局/後援会事務局
宝塚市安倉西3丁目1番5号 宝塚さざんか福祉会 電話0797-83-6544 FAX0797-83-2510

利用者への支援をより確実に 行うための人材確保へ向けて

理事長 松井 美弥子

4月より各事業所の運営状況についても鋭意見直しを行っております。

法人創立以来、法人理念として、利用者のことを常に1番に考えて参りましたが、利用者だけではなく、日々個性豊かな利用者の支援に汗を流す職員も同じく大事にする法人でありたいとの思いのもと、この度（11月22日）、当法人の職員（正規・嘱託）として、5年・10年・15年・20年：最長は35年の永年勤続の53名の方の「永年勤続表彰」を行いました。今後、基準に基づき、毎年表彰をおこなってまいります。

改めて、当法人のすべての職員の方に感謝申し上げます。

利用者の高齢化は年々進み、利用者の個性も多岐にわたり、支援の現場の負担は年々増幅傾向にあります。今の法人の安定運営の最重要課題は人材確保であるとの考えから、知的障害の方の支援の仕事をしたい、当法人で働きたいと思ってもらえる新卒者の確保に向けて、部長・所長・職員が一丸となって、福祉等関係大学への直接的なアプローチや就職フェアへの参加等に力を注ぎ、確実な成果を得ております、非常に心強い思いです。

また、中途採用の募集も様々な方法で行い、手ごたえを感じております。法人本部事務局体制の強化の一歩となる職員の確保もできました。何事も努力することの大切さを実感しております。

保護者の皆様も、どうぞ職員と心を合わせて互いを尊重しあい、大切なお子様（利用者）へのより良い支援ができるようご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



就任挨拶

常務理事 今西 則行

この4月より、和田縉市朗前常務理事の後任として引き継がしていただくこととなりました。



前常務におかれましては17年間という長期にわたり幅広く知的障害者福祉を推進され、法人事業の拡大にご尽力されましたことに心より敬意を表し感謝申し上げます。

後任としては、法人の運営責務の重さを痛感し、いろいろな悩み日々ではございますが、自分ができることを一つずつ、取り組んでまいりたいと思っておりますので、改めましてよろしくご願ひ申し上げます。

私は、平成10年4月より、いきいき宝夢の創設事業に係ることから法人にお世話になり、20年の月日が経とうとしています。当時は「準備室」の一員で現場が無かった為、当初の半年間は、法人すべての通所施設と育成会様が当時運営されていた生活ホーム（現在のグループホーム）や訓練ホーム、「育成事業所」（現宝塚いくせい会）とワークプラザの2階に「第2育成事業所」というこの時期限定の作業所とたくさんの実習や経験をさせていただきました。その後も学童の長期休暇支援など、たくさんのお子様もたちとの出会いもありました。



この経験で、すべての利用者の方々や法人の枠を超えて現場職員の方々、保護者の方々と自然に「顔の見える関係づくり」をさせて頂き、市内の様々な活動や地域性を理解する上でも、とても有り難く、貴重な時間でした。月日が経過した分、その頃お出合いした方々は年齢も高くなってきておられ、今後の事業のあり方としては大きな課題だと感じ、いろいろな角度から、支援のあり方を考えたいと思っております。

障害特性や技術論、方法論を座学で学ぶことも大事ですが、ひとり一人のあたりまえの日常を知ることから始めるといふことも支援を行う上で大切だと思います。人の暮らしは、私たちの目の前の時間のことだけでなく、24時間の毎日が継続しています。様々な場面や時間帯に応じて適切な支援が求められていることを肌で感じ、歳をとっても安心して暮らすことができるよう、実践につなげていきたいと思っております。

今年度より、「人材確保・育成」「高齢化に伴う今後の支援のあり方」「社会福祉法人制度改革」という大きな課題について、重点的に取り組み始めています。

様々な事案が起こる度に、安心や信頼をいただける運営や活動がまだまだできていないと、大変申し訳ない気持ちと反省ばかりですが、取り組むべき課題を整理しながら、前向きに考えていきたいと思っております。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくご願ひ申し上げます。

宝塚めぐみプラザ

宝塚めぐみプラザ事業所探訪

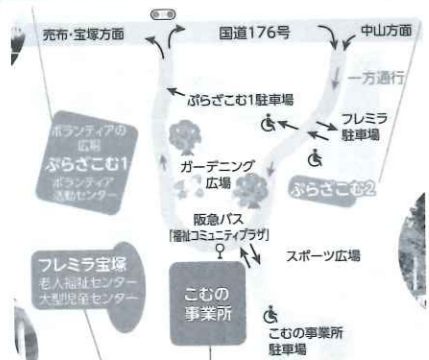
さざんか福祉会にはたくさんのお事業所があります。其々の事業内容やその特徴、どのような利用者さんを対象に、その支援体制は、作業は主に何をしているの、雰囲気は、等々を広報部員が訪問し、シリーズで掲載しています。

今回の事業所探訪は、阪急電車中山観音駅と売布神社駅のほぼ中間点にあるポランテアや市民活動の拠点である宝塚福祉コミュニティプラザ内の「めぐみプラザ」を訪れ、所長の溝田さんからお話を伺いました。

めぐみプラザは平成21年、ぶらさこむの2Fに「ものづくり工房」の特色を持って開設された生活介護の事業所です。



利用者さんは現在23名で男性8名・女性15名です。19才から58才と年齢差はありますが平均年齢は35.6才です。グループホーム等に入られている方は2名で、他の方は全て自宅から通われています。



支援員は8名ですが、他に縫製専門の職員が2名いらつしやいます。

めぐみプラザは、ある企業のスポーツ施設があった頃の建物で、築55年と非常に古いので、3年後には建て替えが計画されています。事業所として使われている2Fにはトイレも食堂も無いので、トイレは1Fに降りて使用し、昼食時は、靴を履き替えて移動。お隣の施設（こむの事業所）の一室で食事をされています。

「ものづくり工房」って何を作っているの？

玄関ホールには、さをり織のタペストリーが下げられ、組紐・ステンドグラスの自主生産品の写真なども飾られています。

それらを見ながら階段を上がったら、すぐの部屋がさをり織の工房でした。

★さをり織

色とりどりの糸を張った16機の織機がずらりと並び、模様・風合い・幅・長さ等々、織布の多様さに驚きます。中でも、少し幅の狭い素敵な白い透かし織りが目をひきました。これは、ご注文品で、シヨールになるそうです。



織を始めるには、糸巻きや縦糸づくり等の準備作業が必要で、使われる糸は利用者さんが選ばれます。但し、注文品はご希望に応えられるとの事です。

★組紐

織機に向かい、トンカラカラと縦糸と横糸を織り合わせて作品を仕上げている利用者さんは、とても楽しそうです。やりがいを感じられるのでしょうね。

織機の奥では、お二人の縫製職員さんがミシンや手仕事で、緻密で丁寧な製品作りをなさっていました。ここで、あの素晴らしい自主生産品が完成するのですね！

織り上がった反物や、縫製の過程で余った端切れなども、希望すれば分けて頂けます。



組紐台からぶら下がった沢山のコマ（糸巻）を、何度も何度も、しっかりと、順序良く組み替える事により素敵な模様の紐が組まれていきます。糸の色、材質、組み方の違いで特徴のある組紐が出来上がります。沢山ぶら下がっているコマ（糸巻）の順番を間違えない様に、きつちりと組み替えるには集中力が必要なんです。

「あなたが組んだこの組紐は、立体感があって誰にもまねの出来ない、世界で一つのオリジナル商品ですよ！」と支援員さんから絶賛された利用者さんは、はにかみながらも、嬉しそうでした。絶賛した方の新人支援員さんも又、先輩支援員さんから励まされ、大事に育てられているようにお見受けしました。



★ステンドグラス
モザイクアートやフォトスタンドの工程は次のようです。

- ①色ガラスを細かく砕く ↓ ガラスカット
- ②小さな破片を ↓ 色毎に分ける
- ③絵具を塗るようにコツコツと貼って
↓ モザイクアートに
- ↑ カップ・テープを丁寧に張り付けて
- ↓ フォトスタンドのフレームに
- ④ハンダごてを使い接着 ↓ 仕上げ



これらの工程は、利用者さんが各々得意な分野を担当されて良い作品(自主生産品)が生まれるそうです。ハンダごての得意な利用者さんは「ステンドグラスの作業は楽しいけど夏は暑いので嫌い」だとか。納得！



★清掃関係

訪問させて頂いた日も『ぶらざこむ1』の館内の掃除に5人が従事されていました。他に『こむ1』3階ホールと階段・玄関付近の掃除作業、『フレミラ』の駐車場や『こむの事業所』周辺の除草作業もしています。
以上、どの作業も生産活動も、皆が交代でしているそうで、平均賃金は月三千円から五千円位との事でした。



★生活支援プログラム

料理活動や音楽活動、水泳等が用意されています。座り作業が多いので健康維持や腰痛予防のため、朝のウォーキングに始まりそれぞれ作業の始まりには、音楽に合わせて体操しています。「夕暮れコンサート」の時にはその体操やダンスを披露することもあるそうです。



★楽しみの昼食



利用者さんの健康状態等に合わせた量や味付けを考慮されているお盆には名札が置かれていました。

☆『チーム・めふプラザ』として
利用者も職員も共有できるコンセプトを作られました。

・それぞれの得意なところを活かした
世界に一つのものづくり

・みんなが働きやすい
毎日来たくなる場所づくり

・社会とつながる

お互いに支え合う人づくり
を目指している…と、溝田所長は熱く語られました。また、随所で、ベテラン支援員さんが若い支援員さんを励まされ、温かく応援している様子がみられました。

☆課題は…

たゆまず常に新商品を開発する
事と、3年後の建て替わった新施設へのスムーズな移転です。新施設は、障がい者や健常者がスポーツ・文化活動を通じて自然に、あるがままで交流できる大きな施設の中で活動していくことになるそうです。その交流の一端を担えるように、さざんか福祉会のもづくり工房として「働く喜び、生きる喜びを追求する」事業所を目指したいとのことでした。

利用者さんの笑顔と職員の皆さんの温かい心意気を胸に「めふプラザ」を後にしました。
ありがとうございました。

(広報部)

突撃！隣のグループホーム

第十六回 ひまわりホーム

台風の影響で涼しい8月30日の夕刻、山本丸橋の176号線沿いに位置する『ひまわりホーム』を広報部員2名で訪問しました。
ここは富田さん、下野さん、信田さん、有井さんの女性4名が入居されています。
29年5月末に建ったばかりの建物はまだ木の香りが残っていました。広い敷地内にゆりホーム、入居予定の丸橋ホーム、グループホームオフィスがあります。又、さざんかの巡回バスの発着場所になっています。



水津支援員さんに案内されたリビングダイニングでは、下野さんがソファでテレビを見てくつろがれていました。富田さんは入浴中とのこと。支援員さんが補助的に入浴介助をされるために、慌ただしくリビングを出て行かれました。そこへ、信田さんが疲れた様子も見せず帰ってこられました。

6時頃、有井さんから今から帰るとい電話が有りました。毎日、仕事を終えると電話をかけて来られます。几帳面なのですね。

4名揃ったところで、お待ちかねの夕食です。今日のメニューは焼き魚、根菜のカレースープ、サラダ、焼き茄子です。皆さん、好き嫌いなく召し上がっていました。渡部調理員さんは主菜の魚類、肉類を交互に

自分で出来ることは自分で

又油はごま油やオリーブオイルを使い、揚げ物は低カロリーに配慮して揚げ焼きにするなど工夫をしていると話されていました。
食へ終えると順次自分の食器を洗い、拭き、食器棚へ。早く食事を終える方と遅い方との差は30分以上ですが、狭い流し台なのでかえってスムーズに片付けていました。但し食器にまだ洗剤が残っている場合は、支援員さんが確認し、自分のことは出来るだけ自分でするという姿勢を大事にしているとの事でした。



仲良しです



食後、皆さんでリビングのソファに座りテレビ鑑賞をしていました。各自の部屋にも小型のテレビが有るのですが、くっついて座っている姿はまるで仲の良い姉妹のようでした。時々、小さな諍いがあるようですが、すぐに元通りに仲良くなるそうです。
下野さんの仕事は「さざんかの家」で下請けの作業をされていて、毎朝敷地内のバスに8時過ぎに乗車して通勤しておられます。通勤にほとんど歩くことがなく、最近は運動不足らしいです。

富田さんは「あしたば園」の空き缶プレス等の仕事で下野さんと同じバスで通勤です。夜8時半頃、皆さんに麦茶を差し上げるのが日課とか。

信田さんの仕事は育成事業所で下請けや福祉機器の消毒等。朝8時前に出勤し



建物内を案内して頂きました

防音対策として個室の道路側の窓はペアガラスなので懸念していた車の騒音はほとんど聞こえませんが、バリアフリーの廊下の幅は一般住宅の1.5倍近くありました。トイレは二つ有り、浴室はゆったりと広く、入浴介助も窮屈なく出来るようです。グループホーム仕様に建てられている事が良く分かりました。さすが、最新の設備を誇る建物です。

リビングの壁に透明のビニール袋が吊り下げられていて一回ずつの薬が入っていました。これなら服薬を忘れることが無いでしょう。

支援員さんが心掛けていることは、ホームは利用者さんがゆったりとくつろげる場所であって欲しいとお話でした。

皆さんのお楽しみは年に数回他のホームの方々と食事会に出かけたり、カラオケに行ったりし、中にはマイクを離さない方もいるとか。光景が目には浮かぶようです。

明朝も早く出勤される利用者さんいらっしゃいます。取材にご協力ありがとうございました。

(広報部)

事業所だよ



10月6日に毎年恒例の日帰りバスツアーで龍野・姫路方面まで行ってきました。(費用の一部、善意銀行に助成していただきました。)目的地は揖保之系そうめんの里と姫路セントラルパークサファリです。今年度は新入所者を迎え、また参加者も増加しました。ボランティアスタッフも含めて賑やかな旅行です。朝からあいにくの天気と交通渋滞により旅行内容に影響しなかと心配していましたが、皆さんの元気と明るさで小雨におさまり、予定通りにすすめていくことができました。多方面からの支えにより楽しい思い出作りができました。皆さんありがとうございました。

(片山 翼)

宝塚げやきの里



笑顔の収穫祭



10月25日(水)に第2回、安倉フェスタが開催されました。場所は鳥島団地集会所周辺にて開催され、鳥島団地、市営安倉西住宅や近隣の方々、宝塚あしたば園、宝塚げやきの里、宝塚さんかの家が参加しました。今回は新たにアカペラや楽器演奏の4グループの出演があり、音楽で盛り上げていただきました。皆さん音楽に合わせ歌ったり手拍子をされたり楽しんでおられました。

その他、飲食ではアイスクリームとサーターアンドギーの出店があり、食欲も満たされ楽しく参加できた1日でした。

(加堂 祐介)



宝塚さんかの家



宝塚あしたば園

日帰り旅行でひらかたパークに行った時の写真です。



笑顔で写っている竹林さんは乗り物が大好きです。普段のお休みの外出時は一日阪急電車に乗られています。日帰り旅行では満場一致のテーマパークへの旅行となりました。職員の方が恐々とした顔をしていました。この後、さらにぐるぐる回る乗り物に乗り、楽しむ竹林さんと胃の中がぐるぐる回る職員になります。好きなことがあるといいですね。竹林さんだけでなく、一緒に行ったメンバーもみんな笑顔でした。今年度は、去年の旅行を踏まえつつ、利用者さんの意見を中心に組ませてもらいましたので、それぞれが楽しめたものとなりましたと思います。

今年度分の旅行はすべて終わりましたが、どの旅行も、また来年も「この笑顔が見たい！」と思わせてくれる楽しい旅行でした。来年も一緒に楽しみましょう。

(天西 僚太)

ワークプラザ宝塚



「楽しい生活プログラム」

ワークプラザ宝塚では、毎月1回月替わりの内容で、独自の生活プログラムを実施しています。散策や料理、制作。

今年度は、ワーク周辺の嵐山のような竹林に行き、その前でものづくり。冷たい三色白玉団子を作り、試食でにっこり。似顔絵づくりでにっこり。

去年度から、特に物を作る楽しさを伝えることに力を入れています。玄関前に展示した作品をみんなで見ているときの笑顔は格別です。生活プログラムに参加していない人たちの飛び入り参加の笑顔も増えています。

(石澤 千里)

宝塚めふらプラザ

「見て楽しみ・乗って楽しみ」

先日、めふらプラザでは、利用者の方々が1か月前からずっと楽しみにされていた日帰り旅行がありました。

まずは滋賀県の琵琶湖でミシガンクルーズ。当日は天候にも恵まれ絶好のクルーズ日和。「良い写真が撮れました!」「初めて乗りました」と嬉しそうにお話をしてくださいました。その後は琵琶湖を眺めながらのホテルバイキング。最後に、京都鉄道博物館に行き、当時活躍していた蒸気機関車や現在も走っている電車を目の前でゆっくりと見学されました。皆さん驚きと嬉しそうな表情をされ、「すごい!」の声がたたくさんありました。帰りの車の中では楽しみ疲れ、眠気と戦っていらっしやいました。

普段とはまた違った、たくさんの笑顔が見られ、楽しい時間を共有できた旅になったのではないかと思います。今回私にとつては初めてのめふらプラザの旅行で緊張もありましたが、皆さんの楽しそうな笑顔が私に一番の癒しを下さった気がします。

(小寺 智也)



京都鉄道博物館

いきいき宝塚

恒例の『山谷秋祭り〜ハロウィン衣装パーティー』を10月6日に実施しました。あいにくの雨模様で屋内での開催でしたが、今年も大盛況で、利用者とそのご家族、地域のお子様方等、多くの方が来場されました。この催しの名の通り、仮装をして来場される方々が目立ちました。

踊りやゲーム、食品の販売、受付での飴・アイスクリームのプレゼント等の催しを行いました。ゲームの景品、食品、受付でのプレゼントは終了を待たずに無くなってしまいう程の来場者数でした。また、「仮装パレード」と称し、仮装した方々のお披露目も行いました。

利用者の中には開始前からそわそわとする方もいれば、終了後には「来年も来るね」と言ってお家路に着く地域の方もおり、楽しい催しであったことを感じました。

(浅山 瑠樹)



かしの木工房 こはま

毎月第1、第3火曜日の午後15時から『かしの木工房 こはま』の前で焼菓子の販売をしています。10月17日はハロウィン特別企画で一日を通して販売を行いました。ハロウィンのために作ったかぼちゃのクッキーとケーキが並びました。手作りの飾り付けをしました。AED(救命)の表示と「おばけ」が並んでいたことにご覧いただきました。約300人の方が通りかかり、50人ほどの方が足を止めて買って下さいました。小浜の交差点から市民病院の間の歩道の続く風景で、かしの木工房 こはまがちょっとしたアクセントになったらいいなと思います。
(田畑 敦彦)



サザンクオリティー

『SasankQuality』ではハロウィンの顔出しを手作りしました。たくさんのお客様に足を止めていただき、楽しんでいただけて、ついでにお店のことをもっと知っていただきたい！そう思っています。監獄の窓をイメージしていますが、下にも窓を作って、ベビーカーや小さいお子様、車イスでも利用していただける工夫をしました。お客様の笑顔が私たちの励みです。



そして皆さんが楽しみにされているのが日帰り旅行。10月4日に和歌山ポルトヨーロッパに行ってきました。片道2時間半の電車の旅もヨーロッパ風の景色も、豪華バイキングもみんな楽しい思い出です。
(木ノ下 美智代)

宝塚くるみの里



日帰り旅行に行きました。昼食はホテルグリーンプラザ東条湖で、コース料理にデザートバイキング。レストランのど真ん中に席を用意して下さったのですが、皆さんその場の雰囲気にあわせた様子でゆったりとお食事を楽しんでいました。おもちゃ王国へ移動し、ジェットコースターにびっくりしている人もいれば、観覧車に乗ってゆったり外を眺めている人も。各々の好みやペースに合わせて乗り物を楽しみました。この写真は、汽車で大きな湖の周りを一周した時のものです。皆良い顔していますよね。来年はどこへ行くのかな？
(元治 里恵)

宝塚さざんか福祉会後援会

定期総会

平成29年6月7日(水)

梅雨入りして終日雨でしたが、アピアホールに於いて来場者約90名のもと開催されました。会長挨拶の後、和田前常務理事の業績に感謝の言葉と記念品が贈呈され、前常務理事からも17年間の思い出の挨拶がありました。

その後、来賓挨拶、謝辞に続き、議事が滞りなく進行されました。ティータイム後、記念講演へ。

知ってほしい私たちのこと

知的障害疑似体験 「宝塚すみれ隊」



会長扮する青バラのプリンスが登場して、会場の方へのインタビュから始まりました。体験を通して知的障害がある方が苦手なところ、誤解されやすい行動、障がいの特徴などを分かりやすく、映像と冊子を交えて宝塚すみれ隊の方が話をされました。知的障がい者を正しく理解し、どう接したら良いかというお話もありました。宝塚市手をつなぐ育成会のメンバーで構成されたすみれ隊は市役所、民生委員の会合などいろいろな場所に出かけて啓発活動をされているようです。障がい者が住みやすい街は誰もが住みやすく、やさしい街であるという話もありました。正しく理解し共に、みんなにやさしい街づくりを願っています。

続いて

「姥日和」田辺聖子作

「雨ニモ負ケズ」宮沢賢治作

朗読サークル「なずな」

西図書館などで定期的に朗読劇を開き、今年で結成20年目の朗読サークル「なずな」のメンバー

10人余りにより「姥日和」田辺聖子作「雨ニモ負ケズ」宮沢賢治作が演じられました。



当日もリハーサルされ、照明にも気を配られ熱演で、楽しませていただきました。最後に会場のみなさんも朗読の仲間入りをしました。

宝塚サマーフェスタ

平成29年8月21日(月)

全国各地で局地的大雨など異常気象が観測された今年の夏でした。幸い8月21日、宝塚は快晴。猛暑の中、末広中央公園で宝塚サマーフェスタが開催されました。今年もさざんか福祉会のブースでは、ケーキやクッキー、さおり織製品などの自主生産品の販売がありま



した。11時、オープンと同時に何うと、すでに品物を選んでおられるお客様が：「毎年買いに来ていますよ」と、うれしい言葉を聞かせて頂きました。今年はずいぶん家で制作しているポンポンたわしがミニサイズのストラップになって登場。手作り体験コーナーでは、さおり織のヘアゴムや髪留めが簡単に作れるというので、私も作ってみました。5分程で可愛いヘアゴムの出来上がりです。宝塚さざんか福祉会のブースの売上は、7万円余りだったという事です。午後2時、ステージプログラムがスタート。高校生のチャリディングから始まり、元気いっぱいキッズのダンスや、暑さに負けない熱いパフォーマンスが続きました。暑い中での長時間の販売、利用者や職員の皆さん、本当にお疲れ様でした。
(広報部)

先進地バス見学会

平成29年11月16日

★社会福祉法人 障友会 堺みなみ（堺市中区）



少し風が冷たいものの秋晴れの中、さざんか福祉会後援会の施設見学会に37名が参加しました。出発してまず『さかい利品の杜』に立ち寄りしました。ここは堺市が生誕の地である千利休と与謝野晶子に関する資料等が展示されているミュージアムです。千利休茶の湯館や茶の湯体験施設などもあり、裏千家のお点前でおいしい抹茶とお菓子を頂戴しました。日頃は、子供の世話や家事等慌たたく過ごす日々ですが、なんかほっこりする非日常なひと時を過ごさせていただきました。

それから近くのホテルでランチを頂き、目的の施設『堺みなみ』にお邪魔しました。

この施設は堺市で初めての知的障害者の通所授産施設として昭和60年に開設されたそうです。利用者50名からの出発だったそうですが現在は、65名の定員ということでした。外観からは、30年以上もたっている建物とは思えないモダンな感じを受けました。

主な事業は生活介護・就労継続B型で、約20か所の業者の受託作業と、エプロン・小物等の縫製を中心に制作し、バザー等で販売をする自主製品販売活動を行っておられました。利用者さんは、4つのグループに分かれ、1階と2階で作業をされていました。

1階での作業の内容は、緩衝剤・ニップル等の袋入れ、紙袋のもち手付け、お守りの紐の部分のセットなど治具



（自立して作業ができるようになるための道具）を使うことも取り入れながら利用者さんそれぞれの能力にあった作業をされています。その中で目が釘付けとなったのは作業室の奥の方でひたすら工業ミシンで縫製を行っている4人の利用者さんたちでした。くらし司の厨房で使用される布巾の縫製ということでしたが、手慣れた感じでした。2階は、生活介護事業のグループで、その人に合わせたゆつくりしたペースでの作業をされている姿が見られました。

また、自主製品の販売活動については、堺市内の30か所の事業者で『パッセネットワーク』と名付けたネットワークを組んでおり、年30回前後のバザーに出品されているそうです。行政の支援も受けてイオンモールの中にアンテナショップも持たれているとのことでした。

利用者さんの平均年齢は46歳ですが、この施設に於いても高齢化の問題は出てきているようで、高齢化に伴う日常のケアに職員の手がかかるようになってきたとの職員の方の本音が聞かれました。法人としては、『ケアスペースつむぎ』という高齢期を迎えた利用者の日中活動の場を3年前に開設され身体機能維持、健康管理を重点的にを行い、高齢になっても充実した日中生活が送れるように取り組んでおられるようです。

平均工賃は、5千円とそれほど高額ではありませんが、20か所もの業者の委託を受けられ、それぞれの能力に合った作業をできるだけ切れ目なく取り組めるように若い所長さんをはじめとして職員さん達が丸と頑張って頑張っておられる姿を拝見し、なんだか少し元気を頂いて帰ってきました。

（参加保護者・安村真紀）



じで何とも手早く、まっすぐ正確に縫えているのに驚かされ、思わず凄いと声が出てしまいました。2階は、生活介護事業のグループで、その人に合わせたゆつくりしたペースでの作業をされている姿が見られました。

また、自主製品の販売活動については、堺市内の30か所の事業者で『パッセネットワーク』と名付けたネットワークを組んでおり、年30回前後のバザーに出品されているそうです。行政の支援も受けてイオンモールの中にアンテナショップも持たれているとのことでした。

利用者さんの平均年齢は46歳ですが、この施設に於いても高齢化の問題は出てきているようで、高齢化に伴う日常のケアに職員の手がかかるようになってきたとの職員の方の本音が聞かれました。法人としては、『ケアスペースつむぎ』という高齢期を迎えた利用者の日中活動の場を3年前に開設され身体機能維持、健康管理を重点的にを行い、高齢になっても充実した日中生活が送れるように取り組んでおられるようです。

平均工賃は、5千円とそれほど高額ではありませんが、20か所もの業者の委託を受けられ、それぞれの能力に合った作業をできるだけ切れ目なく取り組めるように若い所長さんをはじめとして職員さん達が丸と頑張って頑張っておられる姿を拝見し、なんだか少し元気を頂いて帰ってきました。

（参加保護者・安村真紀）



皆様こんにちは。平素は宝塚さざんか福祉会後援会に深いご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

宝塚さざんか福祉会後援会では、『先進地バス見学会』を毎年行っています。他の事業所様を見学し、情報収集や見聞を高めることにより、良いところを活かさせて頂けたら有り難いと思います。又、会員の親睦も大切です。車中や移動中等の機会を有意義にご活用いただき、情報交換の場として頂ける有り難いです。

そんな中、ある視察先のセンター長様より「僕が障がい福祉というものに違和感を覚えているのは、入所施設だけではない。障がいのある人を、できない人、何か足りない人とみなして保護の対象とする社会的な政策や、社会マスコミのそういう風潮も嫌だ。（中略）事業やサービスは、職員の熱意と役員・家族の応援が相まって、曲がりなりにも整いつつある。：サービスが障がいのある人にある特定の狭い場に囲い込んでいるのではないかとさえ思うことがある。：このジレンマを乗り越えていくためのポイントは地域住民の理解だろうか。：町の中に飛び出して、ぶつかり合って、新しい幕開けに、共に立ち会おう」とのお言葉がありました。

後援会の構成は保護者様、行政の方、各先生、職員の方、そして一般の方がご入会いただいています。私達に何が出来たのかは、わずかなことかもしれませんが、地域にお住まいの一般の方のご意見をお聞きし、情報交換を更に活性化させ、地域密着の法人の一助となれば幸いです。

安全・安心・幸せな笑顔の毎日を共に過ごすことが最高です。今年は、インフルエンザワクチン不足等の情報があり年末まで大変でした。皆様におかれましては、お身体にご自愛いただき、良いお年をお迎えくださいませ。

小田切会長より

そんな中、ある視察先のセンター長様より「僕が障がい福祉というものに違和感を覚えているのは、入所施設だけではない。障がいのある人を、できない人、何か足りない人とみなして保護の対象とする社会的な政策や、社会マスコミのそういう風潮も嫌だ。（中略）事業やサービスは、職員の熱意と役員・家族の応援が相まって、曲がりなりにも整いつつある。：サービスが障がいのある人にある特定の狭い場に囲い込んでいるのではないかとさえ思うことがある。：このジレンマを乗り越えていくためのポイントは地域住民の理解だろうか。：町の中に飛び出して、ぶつかり合って、新しい幕開けに、共に立ち会おう」とのお言葉がありました。

後援会の構成は保護者様、行政の方、各先生、職員の方、そして一般の方がご入会いただいています。私達に何が出来たのかは、わずかなことかもしれませんが、地域にお住まいの一般の方のご意見をお聞きし、情報交換を更に活性化させ、地域密着の法人の一助となれば幸いです。

安全・安心・幸せな笑顔の毎日を共に過ごすことが最高です。今年は、インフルエンザワクチン不足等の情報があり年末まで大変でした。皆様におかれましては、お身体にご自愛いただき、良いお年をお迎えくださいませ。

人事異動



5月15日付

職員 いきいき宝夢（看護師）

源野 智子

6月1日付

嘱託職員 いきいき宝夢

宮本 延幸

6月12日付

嘱託職員 さざんかグループホーム

藤本 大輝

7月1日付

嘱託職員 いきいき宝夢

駒田 一成

いきいき宝夢

馬田 健司

総務課

大野木 リカ

8月1日付

嘱託職員 かの木工房 こはま

谷本 育子

9月1日付

嘱託職員 さざんかグループホーム

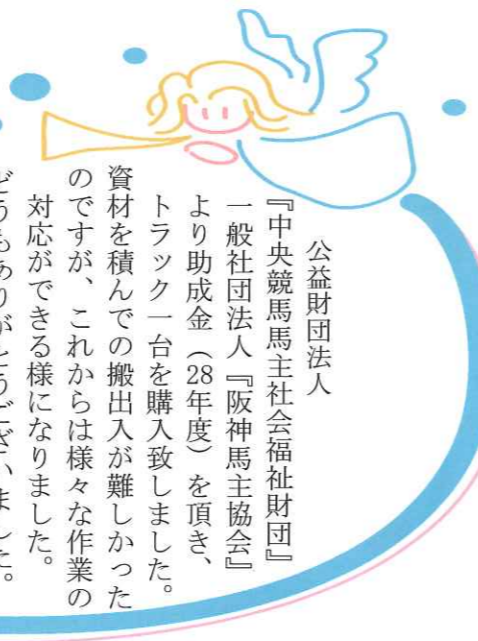
清水 雄亮

宝塚けやきの里

小形 和恵

かの木工房 こはま

福井 陽子



公益財団法人

中央競馬馬主社会福祉財団

一般社団法人『阪神馬主協会』

より助成金（28年度）を頂き、

トラック一台を購入致しました。

資材を積んでの搬入が難しかった

のですが、これからは様々な作業の

対応ができる様になりました。

どうもありがとうございます。

ワークプラザ宝塚



11	11	11	11	10	10	10	9	8	8	7	6	6	6
25	22	6	5	4	25	23	6	1	29	21	13	17	8
平成29年度 後援会定期総会	第1回 法人就職説明会	第1回 職員採用試験	宝塚サマーフェスタ	夕暮れコンサート	仲良しプール	口谷祭り（いきいき宝夢・ワークプラザ合同）	第2回 法人就職説明会	安倉フェスタ（さざんかの家・あしたば園・けやきの里合同）	第2回 職員採用試験	キャピリンピック	後援会バス見学会	永年勤続表彰式	内定式・内定者懇談会

日誌

自平成29年5月1日 至平成29年11月30日

永年勤続表彰式



いきいきホールにて

内定式



宝塚ホテルにて

組ひもブレスレット



完全オリジナルの
組紐のブレスレットの紹介です。

今までいろんな組み方で、ブレスレットを作ってきましたが、優しく、華奢なイメージの物が多かったように思います。

今回は紐一本でもすごいインパクト!!なんといってもトゲトゲなのです。和風の組み方でありながらエスニックなテイストに仕上がっています。組紐なのでもちろん丈夫。でも、とんがっているのにチクチクしません。重りの具合や、糸の張り具合で絶妙な柔らかさを保っています。めふプラザの中でもたった一人にしか組めません。色をリクエストしても、決してその通りになりませんが、1本でも、合わせてもカッコイイ、めふプラザの「世界に一つのものづくり」を体現したブレスレットです。

ご注文はめふプラザまで。
1500円で販売しています。

新
商
品
紹
介

後援会主催 事業所市民見学会のお知らせ

日 時 平成30年3月19日(月)
午後1時～午後2時30分

場 所 宝塚めふプラザ

地域の方々に日頃の感謝と事業所を広く知って頂く目的で
毎年法人の事業所見学を催しています。

～ 詳細は後日チラシを配布致します ～



編集後記

機関誌「さざんか」50号(平成12年発行)は後援会広報部会で編集する初めてのものでした。もちろん施設長も入って頂きながらですが冊子の大きさもB5からA4へと大きくなり、内容も読みやすさを重視していこうという方針になったようです。67号からカラーになり、印刷も事務局担当になりました。秋の夜長、関わってきた30冊余りの機関誌を積み上げ、ひとりで感傷に耽っています。数人の部員で少しでも良いものを作りたいという熱意で多方面の協力を得ながら今日までやってきた感があります。限られた紙面の中で法人、後援会の事業、活動内容等を掲載しながら事業所探訪、グループホーム訪問、いろいろなイベントへの参加などを通じて利用者さんの様子、抱えている問題、目指すものなどを伝えてきたつもりです。

先の後援会総会でのすみれ隊の「知ってほしいわたしたちのこと」という知的障害疑似体験を見てまだまだ伝えていかなければならないことがあると実感しました。「地域で共に暮らすための正しい理解とは」を求めて、すみれ隊の活動はいつも前向きで感心しています。広報活動の中で少しでもお手伝いが出来ればと思います。早く若い方にバトンタッチが出来ればとも願っています。

(田村)

